

# リスク選好を考慮した飲酒行動の決定要因の分析

桃山学院大学経済学部

吉田恵子<sup>1</sup>

## 要旨

本稿はアンケート調査を用いてリスク選好や後回し行動を考慮したアルコール需要関数の推計を行った。使用したデータは2004年2月に大阪大学 COE が行ったアンケート調査である。順序プロビットモデルで推定した結果、以下のことが明らかとなった。1) 後回し行動は飲酒行動の要因となりうる。2) 男性、労働参加をしている個人は飲酒頻度が高い傾向にある。3) リスク選好は飲酒頻度に影響を及ぼさない。リスク回避的な個人に限れば、健康に不安を持っていない者が飲酒をする傾向にある。

---

<sup>1</sup> 桃山学院大学経済学部講師 [kvoshida@andrew.ac.jp](mailto:kvoshida@andrew.ac.jp)(スパム防止のため@前後に半角スペース)  
本稿における誤りはすべて筆者に帰する。